「あはれ、しつるせうとくかな。年ごろは、わろく
感動詞 連体詞 終助 係助 形ク・用
書きけるものかな。」と言ふときに、とぶらひに
四段・用 過去「けり」体 終助 格助 四段・体 格助 四段・用 四段・用 格助
来たる者ども、「こはいかに、かくては立ち たまへ
カ変・用 完了「たり」体 係助 副詞 副詞 係助 四段・用 四段・已 ⓢ人々→良秀
るぞ。あさましきことかな。もののつき たまへ
終助 完了「り」体 形シク・体 終助 格助 四段・用 四段・已 ⓢ人々→良秀
るか。」と言ひければ、「なんでふ、ものの つく
係助 完了「り」体 格助 四段・用 過去「けり」已 接助 副詞 格助 四段・終
べきぞ。年ごろ、不動尊の火炎をあしく 書き
終助 当然「べし」体 格助 格助 形シク・用 四段・用
けるなり。今見れば、かうこそ燃えけれと、心得
断定「なり」終 過去「けり」体 上一・已 接助 副詞 係助 詠嘆「けり」已 下二・用 格助 下二・用
つるなり。
完了「つ」体 断定「なり」終
これこそ、せうとくよ。この道を立てて世に
係助 終助 格助 格助 接助 格助
あらむには、仏だによく書き たてまつらば、
婉曲「む」体 係助 格助 副助 四段・用 四段・未 接助
百千の家も出で来なむ。わたうたちこそ、させる
ラ変・未 格助 係助 形ク・用 強意「ぬ」未 ⓚ良秀→仏 係助 連体詞
能もおはせねば、物をも惜しみ たまへ。」
係助 サ変・未 接助 格助 係助 四段・用 四段・已 ⓢ良秀→人々 打消「ず」已 ⓢ良秀→人々
と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。
格助 四段・用 接助 四段・已 係助 四段・已 過去「けり」已 接助 完了「り」用
そののちにや、良秀がよぢり不動として、今に
断定「なり」用 係助 格助 格助 格助 接助 格助
人々、めで合へり。
四段・已 完了「り」終

「ああ、たいへんな儲けものをしたことだよ。長年（炎を）下手に書いたものだなあ。」と（良秀が）言うと、見舞いに来た人たちが、「これはどうしてこのように立ちなさっているのですか。驚きあきれたことだよ。霊がとりついていらっしゃるのか。」と言ったところ、「どうして、霊がとりつくはずがあろうか。長年、不動尊の火炎を下手に書いてきたのだ。今見ると、このように燃えるのだなあ、と納得したのだ。

これこそ儲けものよ。この道（絵仏師の道）を専門として世の中を生きていくには、仏さえ上手に書き申し上げれば、百軒や千軒の家もきっと建てられるだろう。あなたたちこそ、これといった能力もお持ちでないので、持ち物を惜しんで下さい。」と言ってあざ笑って立っていた。

その後であろうか、良秀のよじり不動といって、今でも人々が、（良秀の仏の絵を）褒めあっている。

©高校古文No.1授業ノート　https://kobun.info/